

～子どもたちの意見表明～

安全委員会9周年おめでとうございます、ほくは、今小学校6年生です。

今年は去年より暴力を人にふるう回数が少なかったです。それは外でたくさん遊んだり好きなサッカー観戦に行ったりユニットでたくさんお手伝いをしたり、暇な時間を少しでも減らして、楽しいことにエネルギー使うことが多かったので暴力をふるうことが少なくなりました。

でも、時々年上の人に対して口が悪くなったり、ムカついたときに人に蹴ったりしてしまったので中学生になる前には口で相手に嫌な事は話して暴力がなくなるように頑張りたいです。そして春から中学生になるのでサッカー部に入ってサッカーを一生懸命頑張りたいです。

ポズラ 小6 高橋宏哉

私は、来年中学校を卒業します。中学生に入ったばかりの私は、落ち着かなく、暴言を言ったり、同じユニットの人に八つ当たりをする事もあったけど、中学校三年生になってから、暴言も八つ当たりも少なくなりました。でも学校では、気持ちのコントロールが、上手いかなくなる事があるので、これからは直していけるように頑張ります。それともっと生活の中で暴言を減らしていけるように、頑張ります。残り、半年の中学校生活を悔いのないように過ごして行きたいです。

来年は、高校生になるので、人に迷惑を掛けない人になりたいです。あと、優しい人になりたいです。
ライラック 中3 高橋憲美



いま、ほくは、はばたきユニットで生活をしていて、みんなでサッカーをしたり外遊びをしたり、お出かけをしたりするのがとても楽しいです。

でも、みんなで生活をしているとケンカをしてしまうこともあります。けど、安全委員会をしたときに相手の話を聞くことで、相手の気持ちを知ることが出来正しく解決できることが増えました。

これからはケンカが減っていくようにがんばり、みんなで楽しく安心した生活が送れるように頑張りたいです。
はばたき 小4 高橋光宏

私は今年から白樺で生活しています。

慣れない環境の中で戸惑うこともあったけど、今は白樺のみんなと楽しく生活することが出来ています。私は普段から口が悪くなってしまうことがよくあります。みんなと仲良く生活するために、乱暴な言葉遣いをしないように心がけています。でも、怒った時に自分でコントロールが出来ず人にあたってしまうことがあるので、気持ちをコントロールすることを自分の目標にしました。

これからも、白樺のみんなと楽しく安心で安全な生活が出来るように頑張ります。

白樺 中1 宮崎留衣

卒園した子どもからみんなへ

安全委員会9周年おめでとうございます。

今私は、児童養護施設を卒園して、保育士を目指して日々頑張っています。

保育士の実習では自分が思っていたより大変で辛いこともありましたが、安全委員会での学びや今まで園の先生方にたくさん支えられたお陰で専門学校に行くことができたので、自分の夢を諦めずに頑張っています。来年、私は専門学校を卒業するので、園の先生方に少しでも恩返しが出来たらと思っています。

平成30年度卒園生 松島結里奈



～田寫先生研修会～

研修テーマ：「改めて安全委員会方式の基礎を学ぶ」

講師：羊ヶ丘養護園安全委員会顧問

九州大学名誉教授 田寫誠一氏



令和元年11月25日、本園で行われた9周年記念集会のため田寫先生に來札して頂くことができ、職員への園内研修会とケースカンファレンスが開催されました。

当園の安全委員会は9周年を迎えましたが、職員は安全委員会対応のマナー化を感じながらどう改善していくべきなのかを課題としてきました。生活の土台となる施設や施設に関わる全ての人的・物的環境を理解し整備しながら、個人としてだけではなく組織的に子どもを育てていくこと、安心な環境を作っていくことを大切にしていき、施設をあげて羊ヶ丘養護園の子ども達が生き生きと安全・安心を感じ生活していくことができるような施設づくりをしていくことを再確認しました。

午後からは、今回嚴重注意を受けた子どもを含め、現在対応に苦慮している3つのケースカンファレンスを行いました。このケースカンファレンスでは個々の子どもの現状に応じた対応策を具体的に学ぶことができました。

今回の研修では、田寫先生から評価いただいた言葉の一つ一つが職員の力となり、また頑張ろうという気持ちになったことでしょうか。職員構成や対象児童も変わる中、いま一度原点に立ち返り、安全委員会方式を基礎から学ぶことができたこと、本当に感謝しております。田寫先生からの学びを無駄にしないように職員一丸となって頑張りたいと思います！！ありがとうございました。



～職員感想～



これまで2人の子どもと一緒に嚴重注意を3回受けました。今まで私は自分の指導に自信がありませんでした。同じ子どもに対してもその都度指導の仕方を変える必要があると共に、伝わり方が違うことが不安に思っていたからです。しかし今回の研修で「自信を持って指導する」ということの大切さを学びました。職員が自信を持たなくては子どもが分からないままになってしまう、子どもに正しいことを伝えるためにも自信をもつことが大事であると感じました。経験と知識をよりつけて、選択肢の幅を増やしたくさんの引き出しを持つ職員になることが今の目標です。

児童指導員(2年目) 根田芽依

何をするにも長く続けることで生じるほころびは避けられません。羊ヶ丘養護園の安全委員会もこの9年間で少しずつほころびやズレが生じてきたことで上手いかなかったこともあるのではないかと考えると、田寫先生の研修やカンファレンスから一度立ち止まり何のために安全委員会方式に取り組んできたのか考える時間を持てたことは有意義な時間となりました。スタートラインに戻った職員と、これからスタートする職員がいつまでも同じ景色を見て走り続けられるような安全委員会の運営を今後も続けられるように私自身励んでいきたいと思っています。

児童指導員(12年目) 松本拓己

自分自身が「できていること」「できていないこと」を振り返り、できていないことは「なぜできていないのか」を考えることができました。私は研修に参加する前日に、初めてユニット児童の嚴重注意の場に同席しました。これまで職員として嚴重注意を受けた子どもに何か別の様々な関わりが出来たのではないかと、職員がもう少し頑張るべきだったのではないかと、気持ちが溢れてきました。これからは、子どもへ応援していること、頑張っていることを言葉で伝え続け、その子と職員の関係性が良い方向に向かっていけるように頑張りたいと思います。

児童指導員(1年目) 村上麻湖